梨白紋羽病 温水で防除

神奈川・JAさがみ試験 野菜土壌消毒を応用

【神奈川・さがみ】JAさがみはこのほど、梨の白紋羽病を防除するため、野菜の熱水土壌消毒の技術を活用した温水治療の試験を大和市代官の梨園で行った。JAの技術顧問や営農センター職員の他、県農業技術センターの職員やボイラーのオペレーターが参加して、園主の協力を得て処理を施した。技術顧問らの話によると、梨の温水治療は東京都や茨城県などで例はあるものの、県内ではおそらく初めての試みという。梨の白紋羽病は防除できる農薬が少なく、実用化されれば梨農家にとって朗報となる。

梨の温水処理を見守るJAさがみの技術顧問ら

対象になったのは、白紋羽病にかかった樹齢およそ15年の「幸水」。作業には、トマトのハウスで使う熱水土壌消毒機のボイラーを活用。木の根元に温水を通すチューブを配置し、その上をシートで覆った。約5時間かけて、根元に約50度の温水を注入した。

白紋羽病の菌は40度の温水で5時間処理すると死滅するが、梨の木は45度までの温度に耐えられるとされる。土壌の温度を一定に保つために、職員らは温度計を小まめにチェックしながら、作業の様子を見守っていた。

この手法は、かん水チューブを使うため、温水が流れやすい傾斜地にも設置しやすい。農薬を使わずに済むので、市街地内に果樹園が多い県内での利用価値が高い。

野菜の熱水土壌消毒と比べて低温の温水でよいため、燃料消費も少ない。「燃焼している時間が短く、ほとんど余熱でお湯を作っている状態」と、関係者は驚いていた。

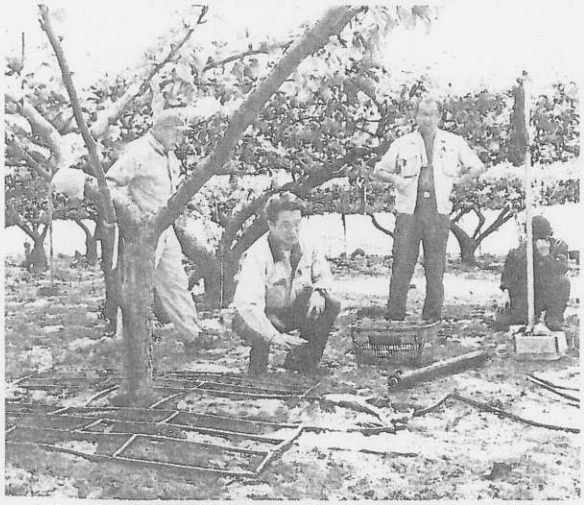
JAは、今回の結果を基に実用化できるかを検討する予定だ。機械設置の方法などの課題もあるが、梨の生産拡大に向け実用化が期待される。

東京都東村山市も

【東京みらい】東京都中央農業改良普及センターは3日、東村山市秋津町の果樹農家、小山哉さんの圃場(ほじょう)で、梨の白紋羽病温水治療現地試験を行った。

同病による樹勢低下の被害に対し、新しい治療法を現地試験を通して生産者に伝えることが目的。

協力した小山さんをはじめ、JA東京みらい管内の梨生産者、同普及センター職員ら17人が参加した。



新しい防除法に期待して東村山市で行われた現地試験

マンゲツモチ 市民が稲刈り

東京都日野市公民館

【東京みなみ】日野市公民館は1日、同市南平の田んぼで「マンゲツモチ」の稲刈りをした。「田んぼの学校」に市民が参加し、5月にもみ振り、6月に田植えなどを行ってきた。

刈り取った稲はその日のうちに掛け干しされ、